



リニューアブル・ジャパン<9522>、日本再生可能エネルギーインフラ投資法人<9283>をTOBで非公開化



リニューアブル・ジャパン（RJ）は12日、インフラファンド市場に上場する日本再生可能エネルギーインフラ投資法人にTOB（株式公開買い付け）を実施し、非公開化すると発表した。買付代金は最大230億6800万円。太陽光発電など再生可能エネルギー発電設備の保有と運営を一体化するのが非公開化の目的。日本再生可能エネルギーインフラ投資法人はRJがスポンサーとして2016年に設立（上場は2017年）したが、発電所の売買価格が上昇する中で、ここ1年以上、新規の発電所を取得できていない状態が続いている。

買付主体はRJの傘下企業が設立したアールジェイ7号（東京都港区）。投資口1株あたりの買付価格は1万5000円で、TOB公表前日の終値10万3900円に10.68%のプレミアムを加えた。買付予定数は20万598口。買付予定数の下限は13万3732口で、RJが所有する1.53%と合わせ全投資口の3分の2以上となるよう設定した。買付期間は5月13日～6月23日。決済の開始日は6月30日。公開買付代理人は野村証券。

RJは2012年に設立し、太陽光、風力、水力など再生可能エネルギー発電の開発、運営・管理を手がけている。2021年12月に東証マザーズ市場に上場（2022年4月東証グロース市場に移管）した。